

編集後記

6月から、ベルギーに1年間滞在することになりました。委員の先生がたには、出発前に行った委員会の後に、ベルギー料理を食事しながら送り出していただきました。各先生がたからのご寄稿により、本号もまた充実した内容・誌面にできたことを確認しております。今後とも本学会誌へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
(堀江 卓)

今年は、診療報酬改定やベースアップ評価、人材不足など頭が痛い状況が続いています。だからこそ、患者様が何を求め、診療所に来ているのかをより深くキャッチしないといけないと感じています。「世の中は強い者が勝つのではなく、世の中に順応した者が勝つ」という言葉、大事にしています、また、私事ではありますが、広報編集委員会の仕事は、これで終わります。14年間お世話になりました。最後に一刻も早く、戦争や紛争が終息することを心から祈っています。感謝を込めて…。

(白壁浩之)

地元広島に帰り、地域歯科医療に従事し、はや1年が過ぎました。学ぶことが多く、第4の人生のスタートです。①大学卒業までの24年、②広島大学時代・結婚の19年、③昭和大学での単身生活21年、そして④帰広してからの開業医人生です。娘2人もそばに居り、4人の孫に囲まれています。たまの編集広報委員会活動も気分転換になりますので、頑張ります。
(佐藤裕二)

2020年に広報編集委員を拝命致しましたがコロナ禍と重なり、会議もオンラインで行われておりました。昨年からはやっと対面形式での会議となり、議事進行もスムーズになりました。学会や講演会なども平常時に戻り、緊急事態宣言もたった4年前のことなのに、すごく昔のように感じるのは私だけでしょうか。ただ最近のニュースによりますと、第11波が押し寄せるとのこと。熱中症と共にコロナにも気をつけたいと思っております。今後ともより良い紙面になりますよう微力ながら務めて参ります。

(坂本輝雄)

今回ほとんど仕事はできておらず皆様にご迷惑をおかけしたと思います。次期広報委員会に期待しております。色々とお世話になりました。
(武内久幸)

今回は、編集委員会に入ってから2回目の発刊にたずさわらせていただきました。今回は、新しい時代へ向けてのデジタル技術や新素材の特集、フェローの先生方の思いなど内容は盛りだくさんでした。多岐にわたる分野でご活躍の先生方の投稿を査読させていただいたことは、とても光栄で、査読させていただくだけでもとても勉強になりました。微力ながらも少しでもお役に立てるように頑張ります。発刊にあたり、ご寄稿いただいた先生方、ご協力いただいた先生方には厚く御礼申し上げます。
(酒向 誠)

COVID-19は7月に入って全国的に感染が拡大し、第11波に突入しています。今回の変異株「KP.3」はオミクロン株一部の新系統で感染力が強く、ワクチンの効力も期待できません。さて、コロナ患者を直接診察することは少なくとも、既往のある方に遭遇することは多いと思います。その際歯科治療で注意すべき点を4つ（口腔カンジダ症の増加、口腔内からの異常出血、MRONJ発症、コロナ後遺症）申し上げます。中等症以上の病態ではステロイド投与、免疫力の低下が考えられ弱毒菌感染を後遺することがあります。口腔カンジダ症は擦過性の白斑だけでなく、赤いカンジダ症もあることをお忘れなく。COVID-19合併症の一つに血栓症があり、抗血栓薬を処方されることが多くみられます。MRONJですが、ステロイドパルス療法等をしているため骨粗鬆症予防のためBP製剤と抗RANKL抗体を処方されることがありますので、ご確認が必要です。最後のコロナ後遺症ですが、筋力低下、倦怠感、うつ病などが代表的ですが、自律神経失調症もあり血管迷走神経反射も発症しやすい状況にあることもご認識ください。
(柴原孝彦)